

スポット回顧風景  
in 釜ヶ崎/あいりん地域

# 1960~70年代、あいりん小・中学校は「教育棄民」をなくすためにがんばった!

新今宮小・中学校→萩之茶屋小・今宮中学校→現いまみや小中一貫校への変遷

先月に続いて地域の子どもに焦点をあてました。  
2人の合作です。



水内俊雄  
大阪市立大学  
都市研究プラザ教授



吉村智博  
大阪市立大学特別研究員  
西成情報アーカイブ学芸員

## 学園誕生の経緯

(細見正『あいりん地区に於けるスラム対策の現状と問題点』1973年より)

1961年8月1~4日の「釜ヶ崎事件」後の対策案で、新愛隣会館(現分館)に教育について何も触れられていなかった。月末には「不就学児童350人を収容する養護学校を建てる」案が出て、その後は民生局ではなく教育委員会が動いた。事件の起こる前から先生や学生ボランティアで、不在家庭の児童を集めて学習指導や郊外レク、子ども会など精力的に行っていたが、事件後、児童を集める運動を強力に推進することになった。12月にはクリスマス子ども会、そして新年子ども会を西成市民館で行い、不就学・長欠の90名の参加があった。各家庭をまわり就学をすすめ、約50名の入学願が提出された。1962年1月には、西成署前の無償提供による地を得て、仮設校舎の鉄入れ式が急転直下進んだのである。最も多い生徒数は、小学校で1966年の114人、中学校で1963年の48人、総計では1965年の152人であった。

表 8-2-1-d 今宮中学校下の中学校・小学校の生徒・児童数等の変遷

年	今宮中学校			あいりん中学校 /新今宮中学校*			あいりん小学校 /新今宮小学校*		
	生徒数	学級数	教員数	生徒数	学級数	教員数	児童数	学級数	教員数
1961	2,388	49	70	51	4				
1965	1,581	38	58	40	3	5	112	6	10
1970	1,042	27	45	34	3	6	58	6	12
1975	899	24	44	11	3	9	14	6	12
1980	780	23	42	7	3	9	3		4
1985	674	20	38						
1990	429	13	28						
1995	258	9	23						
2000	220	7	18						
2005	196	8	19						
2010	147	8	20						

年	萩之茶屋小			弘治小学校			今宮小学校		
	児童数	学級数	教員数	児童数	学級数	教員数	児童数	学級数	教員数
5月1日現在									
1961	1,290	28	31	1,410	30	33	1,405	30	32
1965	945	26	33	956	23	27	1,058	26	32
1970	632	19	25	824	21	25	1,002	25	32
1975	457	14	23	613	18	23	860	25	35
1980	421	14	22	516	15	21	691	19	28
1985	256	10	21	346	13	17	533	17	26
1990	137	6	13	241	9	15	327	12	21
1995	141	7	14	212	7	13	234	10	16
2000	117	7	14	174	7	12	189	7	13
2005	83	8	17	138	7	12	153	7	14
2010	72	7	15	119	7	13	134	7	14

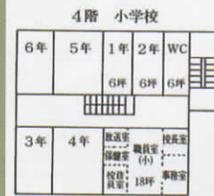
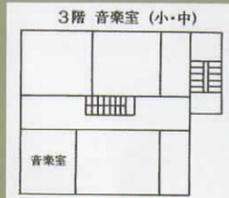
(注) (1)学級数は、特別支援学級を含む。  
(2)※1973年(昭和48年)以降は、新今宮小・中学校の合併数等を記載。  
資料:大阪府教育委員会編『大阪府教育統計』

## 愛隣会館での仮住まい

ほどなくして、指導員として児童の通学奨励などの世話をすることになった小柳伸顕さんは、愛隣会館の「裏口」から入るようになられて、着任初日に会館を訪れた時のことを次のように述懐しています(『教育以前』田畑書店、1975)。

その裏口をさがすと、それはほんとに「裏口」であった。でもそこには「あいりん学園、大阪市立あいりん小学校、大阪市立あいりん中学校」の表札があった。うす暗い細い廊下兼自転車置場を通して階段をのぼる。四階に学校があるという。各階の入口には鉄の扉がついている。四階まではなかなか大変である。四階の鉄の扉の上には「大阪市立あいりん小学校」と案内板が出ている。この扉が、この学校の正門ということになるのかもしれない。重い扉を開けると、これまたうす暗い廊下があって、校長室のプレートがみえる。校長室と言っても待たないということはない。

一つの部屋といっても五〇平方メートルの部屋を六分して使用している、その一つである。…それもみんなロッカーや衝立などの間仕切りなので、声はみなつつ抜



けである。…校長の案内するままに、階段を下りて三階にある生活指導室に入る。…四月末とは言え、北向きの全く陽のさし込まぬ生活指導室は、うすら寒い感じさえた。



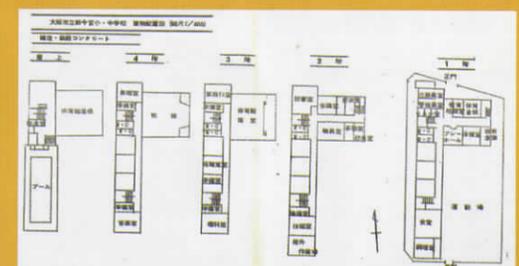
先人たちの努力に敬意!



## 新校舎に(現在は三徳寮)

間借り状態を脱出して、ようやく新校舎が西成区萩之茶屋1丁目に落成したのは1973年12月のことで、同時に「大阪市立新今宮小・中学校」と再び校名変更した。しかし、本来でならば、子どもたちは地元の学校へ通学するはずだから、これはあくまでの一時的な措置として考えられるべきもので、恒久的に存続するものではないはずであった。それゆえ、1984年3月末をもって閉校し、これにともない大阪市立萩之茶屋小学校と今宮中学校にそれぞれ分割統合され、学校事務を継承することになった。

校舎のその後の利用については、地元の意見も踏まえ、1990年に救護施設三徳寮となり、同時にシェルターである生活ケアセンターも併設された。



萩之茶屋小学校

三徳寮の裏庭には  
その記念碑が残っているよ!



## 1962年にあいりん小・中学校が、西成警察署前の仮校舎にて誕生

さきの6月号でも紹介した徳風小学校のような学校に通える場合を除いて、歴史のうえで、日雇い労働者の子どもはほとんどが、長い間「教育棄民」といっても過言ではない状況に置かれていた。

その「教育棄民」をなくすための取り組みとして開設されたのが、あいりん小・中学校であった。この学校は、1962年2月、大阪市立萩之茶屋小学校と今宮中学校の分校という位置づけで「あいりん学園」として発足し、当面は、プレハブ校舎や青空授業などをおこなった。

そして1963年4月には、念願の独立を果たし「大阪市立あいりん小・中学校」として校名変更するが、西成市民館がかつてあった愛隣会館の4、5階に移転するのは、それから4ヶ月経った暑い夏のことであった。

最初はこの場所に  
あったのカー~



# 萩まちだより

発行：萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社

水内俊雄・大阪立大学都市研究プラザ教授  
にお願いして、まちづくり連携特集ですぞ

2月

vol. 13

## スポット回顧風景

in 釜ヶ崎/あいりん地域

### 南海高架下にもこんな歴史あり (あいりん労働福祉センターの仮移転先)

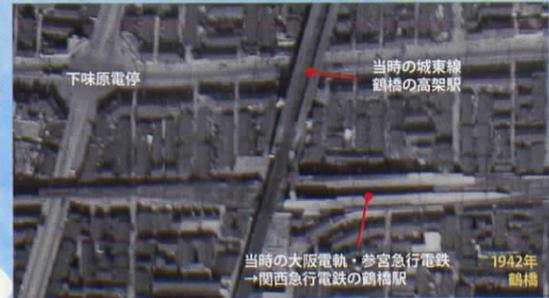
### 高架鉄道に囲まれた城塞都市釜ヶ崎



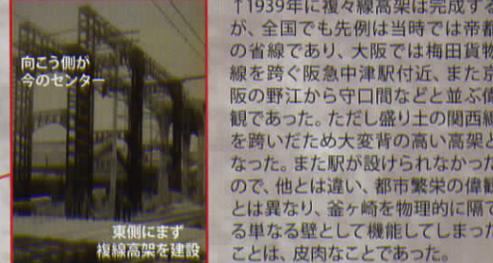
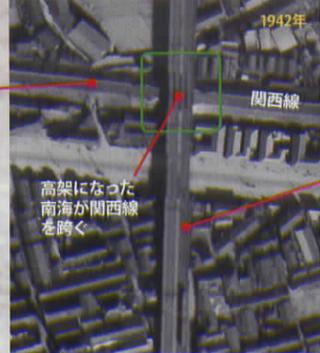
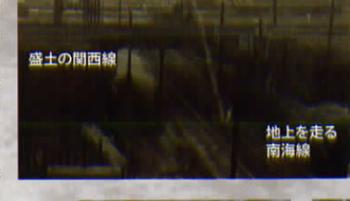
#### 近代都市の象徴 高架電車鉄道

帝都東京で1914年の東京駅開業と、そこから南進する京浜電車が走る有楽町、新橋、浜松町などに現れた高架が最も象徴的である。その後1932年には秋葉原に三層の大高架駅が建設されたりした。高架鉄道は、近代都市景観のシンボルとして大東京の躍進を実感させるものであった(大阪市所蔵空中写真)。

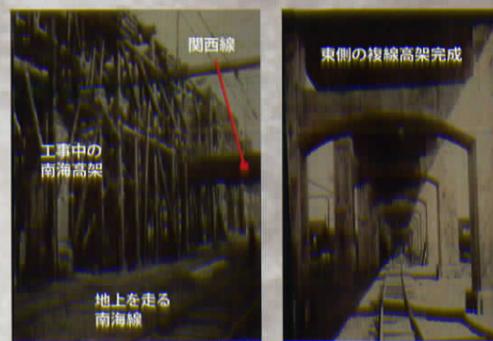
大大阪では、私鉄が京阪神の発展を牽引してきた。輸送力の増強とともに、高架複線化、複々線化が大正末期から始まる。1933年、34年に完成した省線(当時の国鉄)の城東線と東海道線の電化高架プロジェクトは、私鉄の接続が駅の多層構造を生み出し、駅前空間は地下鉄も含めて急速に立体化した。  
代表的な難波駅を取り上げる紙幅はないが、梅田、天王寺、鶴橋の事例を、1942年の空中写真で紹介する。



#### 南海高架建設当時の写真(1937年)から



うわっなんて貴重な写真!



戦後の南海高架は、1960年前後では、高架に接した自然発生的小屋集落が特徴的な景観となった。ある種混とんとした景観が、『太陽の墓場』の格好のロケ地となったのであろう。

## よくある誤解

ね、よくあるわよね

なるほど

### 誤解1

#### 長町スラムが丸ごと移転して現・新今宮駅周辺の街が形成されたという誤解

現在の釜ヶ崎(あいりん)地域の成り立ちについてはかつて「丸ごと強制移転」説がありました。つまり、1903(明治36)年の第5回内国勧業博覧会(現在の天王寺公園~新世界一帯で開催。その後、博覧会跡地の一部に1912(明治45)年開園したルナ・パークにパリのエッフェル塔と凱旋門とを融合して初代通天閣も建てられた)に明治天皇が来訪することになり、すぐ北側(現・浪速区の日本橋電気屋街の裏通り)にあった長町(名護町)スラムの存在が問題視され、その地に多数あった木賃宿も含めて丸ごと2kmほど南側の地域、現・簡易宿所街のある地域(萩之茶屋1丁目付近)まで強制移転させられた、と。

その後研究が進み、2000年代になってからこの説は事実とはかなり異なることが判明しました。

当該場所は明治維新を迎え、紀州街道ぞいにあった鳶田刑場はなくなり、のどかな田畑地帯でした。そこへ、①1898(明治31)年に「宿屋営業取締規則」という木賃宿などに関する法令が制定されて、木賃宿の営業は大阪市外(当時は現在のJR環状線以南が大阪市外)で行なうべきこととされました。②同じ頃、日本橋筋界わいで道路の拡幅工事等があった影響でスラム住民は、日本橋筋の東西の裏手に拡散・定住しました。③一方で木賃宿は、新たな営業地としてこの市外の小字釜ヶ崎を中心とする紀州街道ぞいに、1900年代初め(明治30年代後半)から移り始め、ビジネスチャンスと見て、木賃宿創業に多くの人々が各地、各方面からやってきました。今日の西成区の簡易宿所街の始まりとなりました。④その後の急速な都市化の進展とともに木賃宿の数が増えました。⑤1912年には、日本最古の社会福祉法人である大阪自彊館が共同宿泊所を設置し、この地で事業展開し始めました。⑥1910年代半ばには50軒前後、1万人規模の木賃宿街になりました。⑦またこの釜ヶ崎への木賃宿の進出より先に、今の太子地区では鳶田刑場などの跡地に1897年燐寸(マッチ)工場ができ社宅、長屋が形成され、労働者の密住地区が先に登場したという、もう一つ重要な都市化の歴史的事実もありました。

これが、おおよその経過のようです。確かに、「丸ごと強制移転」なら民衆の強い抵抗があったはずですが、それが伝わっていない点と符号します。こうして、新今宮駅界わいは宿のありようが街を形成し、逆に街の変容が宿を変えていくという、宿と街の相互作用の中で動いていく、我が国でもユニークな地域となってきたと言えます。今日の訪日外国人観光客(インバウンド)が安宿を求めて殺到する大波は、これに根差した当然の事象であるとも言えます。

### 誤解2

#### 飛田遊郭は釜ヶ崎の日雇い労働者たちを目当てに形成されているという誤解

東京の日雇い労働者の街・山谷地域でも隣接して吉原遊郭があったこともこの誤解を広げている一因ともなっています。いかにもありそうですし。しかし、実際の形成史を見ると、実はこれは偶然なのです。

1911年に新世界や通天閣が形成されたのは、上記誤解への回答にも記したように、1903年の第5回内国勧業博覧会の跡地の再開発によるものです。当時は時代の最先端の「テーマパーク」でした。時を同じくして、難波新地や南地五花街といった遊郭が1912(明治45)年の大火で全焼し、現地難波での再開発ではなく郊外の新地として、開発の起爆剤として現在の飛田新地に遊郭が整備されました。1916(大正5)年に認可され、18(大正7)年から開業して今に至る(戦後は遊廓から新地へ名称変更)という経過があります。当時の「旦那衆」の遊びの場だけでなく、新世界から天王寺・あべの橋から多くの人々に利用されたのです。

一方、釜ヶ崎が単身男性の街に特化していくのは1960年代からです。(下記も参照)  
ちなみに、鳶田は飛田新地とは無関係です。場所も異なります。(本誌P14~P15に記述)

### 誤解3

#### 世間にある「新今宮駅周辺は丸ごと釜ヶ崎」という誤ったイメージ、及び釜ヶ崎の中を画一的にとらえる誤解

今の新今宮駅南側一帯が1960年代に、行政の誘導もあって、単身男性の日雇い労働者の街に特化し、一時期は25,000~30,000人とも言われる巨大集住地域となったこと、また24次にもわたる暴動があったこと等から、このイメージが全国にすっかり定着することとなりました。

しかし、本誌の各頁をめくっていただければおわかりのように、日雇い労働者の集住地域という意味での「釜ヶ崎」が形成されたのは、約120年間の地域史のうち後半の60年間の出来事です。しかもその内側では、山王・太子・萩之茶屋・花園など各区域の成り立ちや特徴に違いがあることがよくわかると思います。

もちろん、それらを貫く共通の特徴もあります。その重要な一つが本誌が強調する「地力と磁力のまち」であることです。今後の当該地域は、内発的なまちづくりとグローバル化との交錯の中で、その内部においてさらなる役割分化が進みつつ、一体的な前進も図られることが予想され、期待もされます。

漫画『カマヤン』の作者ありむら潜が案内



実施団体：萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社  
協力：釜ヶ崎のまち再生フォーラム

# 釜ヶ崎のまちスタディ・ツアーのご案内

釜ヶ崎の実際や貧困地域のまちづくりを「学びたい」「役立ちたい」「良い報道をしたい」方におススメ

内容：

パワポでの事前解説 + まち歩き + 語り合い



オプション

+ 報道関係者研修コース

目的： あいりん地域に関して正確で深い良質な報道がなされるよう手助けすることによって、釜ヶ崎の複雑な問題の理解につながるようにすること。  
講師陣： 釜ヶ崎経験の長いスタッフを中心に、地元の現場熟練者や各分野の研究者たちと連携しながら、進めます。元日雇い労働者の方々も「経験の語り部」となってくれます。  
内容： 通常のスタディ・ツアー+特別レクチャー（報道事例や諸資料を使って考え方の基本や取材方法を提案。実際の取材や記事執筆段階での助言も。

- 【目的】
- 1) ホームレス問題や釜ヶ崎(=あいりん地域。以下同じ)でのまちづくりに関する現地訪問を受け入れ、相互理解(学びあい)を深めること。
  - 2) それを通じて、社会と釜ヶ崎地域との架け橋となること。
  - 3) 「おっちゃんガイド」や「人生の語り部」となってもらうことで、単身高齢者等の生きがいづくりや小さな仕事づくりに寄与すること。
  - 4) 国内外の貧困問題や貧困集中地域におけるまちづくりについて共に考えること。

【対象者】 一般市民・学生・研究者・ジャーナリストなどで、事業の目的(上記)を理解していただける方

【方法】 実施団体のスタッフ(通常は、漫画「カマヤン」の作者・ありむら潜)が地域をガイドし、この街に住んでいる人々の暮らしぶり、人々が取り組んでいるさまざまな活動や課題について体感します。「人生の語り部」となった元労働者(日雇い仕事や野宿経験のある単身高齢者で、生活保護受給中の方が多い)との懇談も組んでいます。所要3時間半程度

釜ヶ崎のまちスタディ・ツアー実施回数

年度	回数(≒団体)	参加(人)
2004(後半)	14	78
2005	23	238
2006	29	293
～途中省略～		
2012	48	392
2013	25	263
2014	30	381
2015	29	491
2016	23	318
2017	38	436
2018	34	493
2004～2018 通算	407	4590 人

【参加者像】

大学生(ゼミごとの場合も)・院生・留学生、行政関係者、福祉・医療・介護従事者、学校の先生グループ、人権問題グループ、建築家やまちづくりNPO、国連機関日本事務所(世界銀行・WHO)、JICA、外国領事館、ホームレス文化芸術支援NPO、途上国支援日本NGO、日本研究外国人、ジャーナリスト、地方議員団、生協、労金、僧侶グループ、環境系雑誌、ボランティア主婦...etc

【参加後の感想】

「行ってはいけない街と言われて育ったが、参加してよかった」「街や人のイメージが全く変わった。安全で、つながりづくりを大事にしている」「知ることがまず自分が釜ヶ崎にできる貢献だと思った」「生きるための工夫や手助けがされていた」「インクルーシブでレジリエントなまちづくりが模索されている」(萩まちだより 2018年11月号などに特集)

【参加費】

学生等 2,000 円/人、一般社会人(フルタイム勤労者) 3,000 円/人+(報道関係者研修コースは別途 2,000 円/人)

\*事業維持費、資料費、人生の語り部=単身高齢者の方々へのお茶代、地域の困窮者支援諸団体への寄付金(還元金)等として申し受けます。

\*留学生その他経済的配慮の必要な方々は割引相談に応じます。

【最低参加人数】

5 人(4 人以下のご希望は他団体の日程に合流していただいています)。最大は条件付きで 30 人程度まで可。

【その他オプション事例】

高齢者の紙芝居劇グループ「むすび」とも連携しています。上演見学&懇談希望の場合は仲介します。所要 45 分。こどもの里へもつなぎます。(各受け入れ先へ別途謝金をお願いしています)

【実施曜日・時間】

日曜日以外の午前・午後(平日歓迎)



長く続いとるわい



トリの目とムシの目で観察していきます

お問い合わせ & お申込み 萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社(まちナビ事業部)

090-8448-0315 または kama-yan@sun-inet.or.jp (いずれも、ありむら潜)

〒557-0002 大阪市西成区太子1-4-2 太子中央ビル 203号 電話 06-6630-6383

since2013

# 地域のみなさまと共に

## 萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社

〒557-0002 大阪市西成区太子1-4-2 太子中央ビル203号  
TEL:06-6630-6383 / FAX:06-6630-6384 / https://www.hagimachi.com/

### 不動産事業部 「萩まち不動産」

- ・賃貸物件の仲介(入居相談・サポートも含む)
- ・不動産売買等の仲介(まちづくり支援等も含む)



↑弊社道路向かいの三角形ビル1階にあります。

### 受託事業部

- ・まち美化パトロール
- ・迷惑駐輪防止事業
- ・美化啓発ステーション事業
- ・その他



大阪市からの委託事業(環境整備事業)を実施。あいりん地域の労働者雇用とまちづくり推進の一石二鳥路線です。

### まちナビ事業部

- ・(研修)釜ヶ崎のまちスタディツアー
- ・萩まちだより発行



この本の発行もこの仕事です

### チャレンジ・ショップ KAMA PUB

- ・(西成ジャズ) DONNA LEE
- ・(定食屋) さと Platz (フラッツ)
- ・(日曜カフェ) たんぷーり
- ・(こども食堂) はぎ食堂



どの店もチャレンジ真っ最中。ぜひ、いらしてね!

まち美化パトロールは6日連続で働ける仕事。抽選に当たるのが楽しみや。ゴミ問題を啓発する仕事なので、自分の意識も変わってきたわ。アハハハ



弊社の事業全体図です。まちづくりのツールとして私たちをご利用ください。

2008年に始まった「仮称 萩之茶屋地域周辺まちづくり拡大会議」に参加している有志たちが、「他人まかせ、行政まかせにできない。自らもできることを」と決断して設立した会社です。行政との協働を含め、地域住民の皆さんのご支持がなければ存続できません。応援よろしくお願ひします。



西口宗宏 社長  
前・萩之茶屋第6町会長  
(歴14年)

実はまちづくり合同会社って、よお知らなんだ。この図を見て、「あ、そやったんかいな」と、わかりました。大きく育ててほしいね。



地域住民のBさん

## ドローン撮影の写真は要りませんか? 地域全域を撮影しました。

本誌で掲載したような全体空撮写真だけでなく、個別の建物の写真も利用できます。あなたの店舗・会社・団体・施設等の広報媒体で活用してはいかがでしょうか? TEL 090-8448-0315 (ありむら) Mail kama-yan@sun-inet.or.jp http://www.kamagasaki-forum.com/

